

## はじめに

2012年10月、山中伸弥・京都大学教授のノーベル賞受賞のニュースに、多くの国民がエールを送った。教授の偉業をたたえることはもちろん、その業績から「難病の苦しみからの解放」や「医療産業で競争力をつけた強い日本」を予感した人も多かったであろう。

我々は科学技術に何を期待しているのか。我々は、なぜ研究開発に投資するのだろうか。

これまで、人類は科学技術の力を駆使して今日の文明社会を築き、また新技術が発達しながら広く普及していく際に生まれる経済利益を巡って熾烈な競争を展開してきた。今現在も、更に快適な生活と活力に満ちた経済を求めて研究開発競争が日々展開されている。

我が国は、天然資源に恵まれない条件の下、これまで国民の叡智が支える科学技術を力に、原材料を輸入しては工業製品を輸出して、成長と発達を遂げてきた。海外で行われた対日世論調査では、日本への関心の首位に科学技術が上がり、国内では、科学技術への投資に当たって、経済、産業の発展への貢献を重視すべきと考えている人が多い。実際、我が国は、特許登録件数で世界第1位、今世紀のノーベル賞受賞者数が英国と並んで世界第2位であり、また、イノベーション駆動型の発達段階にあると評される<sup>1</sup>。我が国の目指す姿は、科学技術力で成長と豊かさを追求する国であろう。

世界に目を転じると、様々な国や地域で成長の糧として科学技術を強化する政策が展開されている。米国では、今世紀初めより競争力強化のためにあらためて科学技術の強化が図られている。2013年の大統領の政策方針演説（一般教書演説）においては、製造業の革命に関して、最も優れたアイデアへ投資、新しい雇用を生み出す科学やイノベーションへ投資する必要性が強調されている。そして、今こそ米国の研究開発レベルを宇宙開発競争の最盛期並みに回復させる時だとする方針が表明された。EUでは、科学技術を競争力の強化と経済発展の原動力と位置付けて、科学技術の強化を欧州全域で進め、欧州研究圏の形成を進めている。アジア諸国も、急速な科学技術水準の向上と急激な成長を見せている。

一方、我が国は、第4期科学技術基本計画を策定し、科学技術とイノベーションの一体的な推進に取り組んでいる。平成24年12月に発足した安倍内閣においては、イノベーションの実現を三本の矢の一つである成長戦略の重要な柱と位置付けている。

第1部では、我が国の科学技術政策を取り巻く動向を概観し、イノベーション実現の根幹をなす我が国の科学技術力について、世界の潮流と比較しつつ課題と取組を取りまとめた。

<sup>1</sup> The Global Competitiveness Report